農作業事故の調査方法についての研究

三廻部 真己

A Study on Research Methods of Farm Accidents

Masami MIKURUBE

1 緒 言

農業の機械化による農作業事故が、全国各地で発生しているが、この事故原因を究明する事故調査が行われていないのが実態である。

農水省の「農作業事故調査結果」によると、昭和46年から57年までの12年間に4,650人が事故死、年平均388人が死亡している。しかも、農作業事故死の発生は、他産業のそれが減少しているのに対し、増加している。農作業の事故原因は、墜落や転落など在外型の同種災害の繰返し事故の連続が多い。

これらの農作業事故は漫然として起こっているのではなく、事故には必ず原因があり、起こるべくして起きているのである。そこで、著者は、農作業事故原因の調査を実施し、事故原因を摘出、分析して、事故防止対策を検討する事故調査の手法および農作業事故調査報告書例を開発したので報告する。

2 事故調査の目的

農作業事故の防止効果をあげるために、事故原因を具体的に究明して、重要な情報を把握することにある。同時に事故要因を分析、事故原因を決

定し、事故防止対策を実行する。また、調査結果に基づいて各種の事故統計を作成する。

3 事故調査の対象

農作業上の死傷病、窒息、急性中毒、感電などの事故を対象に実施する。この場合、不慮災害についても実施することが重要である。それは、不慮災害は、事故の偶然性によって死亡事故にもなり、重傷、軽傷、無傷害というように事故の内容に格差をきたすので不慮災害でも事故調査の対象にすべきである。

4 事故調査のあり方と方法

被害者の救出が最優先すべきである。事故発見と同時に救急車の応援を求める。この間、外傷による出血を止めるなどの救急処置を講じることである。

事故の発生後は時間の経過とともに災害現場の様相が変化し、事故原因の手がかりをつかむことが困難となるので可能なかぎり至急を実施する。

調査にあたっては、事故原因の事実をつかむことに専念し、事故の責任の所在を求めるような調査はしないことである。責任追究の事故調査になると真実を聞きとることが困難になるからである。

日本農作業研究会第20回講演会で発表

神奈川県農協中央会 横浜市中区海岸通り1-2-2 〒231

Kanagawa Pref. Union of Agricultural Cooperatives 1-2-2, Kaigandori, Nakaku, Yokohama.

農作業事故調査書

労災保険 番号	府 県 所 属 管 轄	基 幹 番 号	枝 番 号

被災者氏名		男・女	生年月日	明大昭	年 月 日 (歳)	経験年数	年	住所	(電話)		
使用農機		農機購入年		購入先		メーカー名		農作業名			
		年 1.新規 2.中古		1.農協 2.その他							
傷病部位の状況								休業見込日数	年 月 日から 日 日 間		
								障害等級	給付基礎日額		
								級	円		
農 作 業 事 故 の 発 生 状 況 と 原 因	発生日時	年 月 日 (曜日) 午 時 分 後				天 候					
	発生場所					現認者					
	物的損害							損害見込額	円		
	災害発生状況及び原因 ①どのような場所で ②どのような作業をしているときに ③どのような物又は環境に ④どのような不安全な又は有害な状態があって ⑤どのようにして災害が発生したかを詳細に記入すること。						傷病部位の略図
調 査 者		調 査 月 日				年 月 日	(注) 当該傷病部位に × 印をつける				
事 故 の 型	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%;"> 1. 墜落、転落 5. 崩壊、転落 9. 踏み抜き 13. 感電 17. 交通事故（道路） 21. 分類不能 2. 転倒 6. 激突され 10. おぼれ 14. 爆発 18. 交通事故（その他） 3. 激突 7. はさまれ・巻き込まれ 11. 高温、低温の物との接触 15. 破裂 19. 動作の反動、無理な動作 4. 飛来、落下 8. 切れ・こすれ 12. 有害物等との接触 16. 火災 20. その他 </div> </div>										
災 害 要 因 （裏面参照）											
不 安 全 な 行 動	1. 安全装置を無効にする 2. 安全装置の不履行 3. 不安全な放置 4. 危険な状態を作る 5. 機械、装置等の指定外の使用 6. 運転中の機械、装置等の掃除、注油、修理、点検等 7. 保護具、服装の欠陥 8. その他危険有害場所への接近 9. その他の不安全な行為 10. 運転の失敗（乗り物） 11. 誤った動作 12. その他および分類不能		不 安 全 な 状 態	1. 物自体の欠陥 2. 防護措置の欠陥 3. 物の置き方、作業箇所の欠陥 4. 保護具、服装等の欠陥 5. 作業環境の欠陥 6. 部分的、自然的に不安全な状態 7. 作業方法の欠陥 8. その他および分類不能		安 全 管 理 の 欠 陥	1. 整備不良農機 2. 作業分量の過重 3. 作業方法を教えない 4. 不健康者の就農 a. 高血圧 j. その他 b. 心臓病 ア. 妊娠中 c. 肝臓病 イ. 産 後 d. 糖尿病 ウ. 負傷中 e. 貧血症 エ. 頭 痛 f. 神経痛 オ. 腹 痛 g. 腰 痛 カ. 疲 労 h. 眼 病 キ. 寝不足 i. 感 冒 ク. 心配ごと ケ. 二日酔 5. その他		欠 陥 機 械	1. 動力伝導部分に防護措置がない 2. 農機的设计、構造上の欠陥 3. その他 ()	
	被災者が考える事柄			調査者が考える事柄							
今 後 の 事 故 防 止 対 策			農 業 経 営 に 及 ぼ し た 影 響	項 目	影 響 度 合						
					強	普通	弱				
				5	4	3	2	1			
				1. 労力不足							
				2. 家族への過重負担							
				3. 雇用労賃の増加							
				4. 治癒後事故前のように作業不可							
		5. 他作目への転換									
		6. 経営規模の縮小									
		7. その他 ()									

(注) 災害現場の写真および見取図は裏面に添付してください。

調査方法としては、テープレコーダー、カメラ等を使って被災者、事故の目撃者、関係者からの証言を求め、事故現場を撮影しておく。また、農機の破片など証拠物件があれば収集して追跡調査の参考に役立てることが必要である。

5 調査の着眼点

農作業事故の多くは、「くりかえし事故」すなわち、同種災害の再発が多いのが特徴である。事故の発生は、物（環境）と人の接触によって起きていることから事故調査の方法、着眼点は、事故の仕組みが①不安全な行動、②不安全な状態、③安全管理上の欠陥、④欠陥機械の4項目から成立していることに留意して、この4つの側面から事故原因の究明に着手することが効果的である。つまり、人の側、物（環境）の側、安全管理の側、欠陥機械であったか、否かの側から事故原因を追究していく。

調査の手順は、この事故は何が原因で、どうして起きたのか—ということを念頭において①どのような場所で、②どのような農作業をしているときに、③どのような物、または環境のもとで、④どのような不安全状態、または有害状態があって、⑤どのようにして事故が発生したかについて調査・検討していけば事故原因が浮きぼりになり、これに対応した事故防止対策が抽出できる。

6 事故調査の実施体制

農業においても他産業の労災事故調査なみに事故調査の実施体制を構築すべきである。

農作業事故が発生した場合、どの機関が事故調査を実施するのか決っていない。事故原因の究明が行われていないのが実態である。この点、農業機械の購買事業を行い、農家の労災保険業務を行っている農協が事務局になって、各関係機関と協力して、農家も含めた実施体制、例えば「農作業安全委員会」を設置することがのぞましい。

同委員会の機能は①農作業の事故調査、②農作業安全対策の推進、③地域農業の安全管理、④その他事故防止対策を活動内容とすることを提唱したい。

7 事故調査結果の活用

事故調査結果から農作業に潜在する危険要因が判明するので、これに対応した安全対策を周知徹底する。また、調査結果の各項目を収集して、各種の災害統計をつくり、分析、この面から安全対策を打ち出す。これまでの抽象的な農作業の安全運動を具体的なものにして、農家の危険予知感覚を育成し、ゼロ災害をめざしていくことが肝要である。

参考引用文献

三廻部真己(1982)農業の安全管理 241～260, 農林統計協会。